

# BIM図面で建築確認審査

## 26年春から開始 国交省

国土交通省は7月18日、建築BIM環境整備部会を開き、BIMを活用した建築確認申請の開始に向け、取り組み状況を報告した。2026年春に、BIMで作成した図面データによる建築確認、29年春にはBIMデータによる建築確認を開始する。整合性の高い申請図書の作成とオンライン申請によって、作業の効率化と審査期間の短縮が期待できる。

■BIMを活用した建築確認申請のスケジュール

2024年度	BIM図面審査ガイドライン、マニュアル案、ツール案の作成
2025年度	確認申請CDEのシステム構築、制度の周知、標準パラメータリスト(案)の作成、BIMデータ標準化の検討
2026年春	BIM図面審査開始
2029年春(予定)	BIMデータ審査開始

同部会は、BIM図「基準」に基づいてBIM面審査ガイドラインMデータを作成し、従(素案)を作成し、審来と同様の申請図書を査の手順などを整理し、PDF形式で提出する。申請者は、国交省が今後定める「入出力」この他、コンピューター上に再現した建物の立体モデル(BIMモデル)のIFCデータと、設計者チェックリストも提出する。設計者チェックリスト

は、設計者が入出力基準に従ってデータを作成したことを申告する書類で、データの整合性を裏付ける。データの提出先は、国交省が確認申請用に開発しているクラウドの共通データ環境(CDE)で、全てオンラインでの申請が可能となる。

今後、24年度内にBIM図面審査ガイドラインの内容を固め、審査手順の詳細を示すマニュアル案や入出力基準などのツール案を作成する。

申請の審査対象にBIMモデルのIFCデータなどに加え、29年春から運用を開始するBIM図面審査の周知と準備を行う。

また、さまざまなBIMデータを活用できるようなデータの標準化と連携を図り、建設業界全体の生産性向上の実現を目指す。着匠設計や構造、設備、施工・製作、データ統合、積算の分野で使用される用語を整理し、辞書的に使用できる「標準パラメータリスト(案)」を25年2月ごろに作成する。

富士建設(白石町、溝口隆治代表取締役社長)は、佐賀市川副町の「博愛の里」子ども園の子どもたちにクレヨンプレゼントした。

7月25日に田島和也氏(監理技術者)、岩永裕太氏(現場代理人)が園を訪れ、子どもたちにクレヨンセットを手渡した。

同社は同町で施工中の佐賀208号川副地区改良(18工区)工事

申請者1個人(三養基郡)  
開発地1三養基郡基山町宮浦下ノ原130ノ7  
目的1分家住宅1棟面積1406.47㎡  
施工者1セキスイハイム九州(株)  
工期16月1日〜9月30日  
申請者1(株)坂口組(鳥栖市神辺町450ノ3)  
開発地1鳥栖市平田町大平田3240ノ3他6筆  
目的1宅地分譲20区画面積15331.47㎡  
施工者1(株)坂口組  
工期16月15日〜12月30日

### 伊万里建設業協会青年部 サマースクールに協力 思い出になる体験を



友達との操作に歓声が上がる。小学校で、子どもたちがサマースクールに協力し、出前授業を開催した。伊万里市立大川内小学校で、子どもたちが建設業について説明を受けた。校庭に移動。子どもたちは青年部会員

した。川口信介会長は「子どもの思い出になれば」と話す。

サマースクールは同校の児童35人を対象に行われた。まず教室で川口会長が「ショベルカーのレバーが多くて、動かしている人は全部覚えていてすごいなと思った」「高所作業車は、最初は緊張したが、上がったときは景色が良く、気持ちよかったです」と話した。

また、安全帯が重くてびっくりした。子どもたちは「また乗りたい」など、いろいろな感想が聞かれた。



バックホウ、高所作業車、転圧ローラー車を用意した。

### 国土交通 行政功労 佐賀河川事務所、3人1社が受賞

佐賀河川事務所は7月30日、国土交通行政功労事務所長表彰の受賞者を発表し、業務部門で優秀技術者1人、優良施工業者2人、優良施工業者1社、優良施工業者1社の3人1社が選ばれた。表彰式は8月6日に同事務所で開催する。

受賞者および受賞企業は次の通り(敬称略)。

- 【優秀技術者(業務)】▽井上大介(株式会社建設コンサルタンツ九州支社)
- 【優良施工業者(業務部門)】▽三井共同建設コンサルタンツ九州支社(令和5年度城原川ダム周辺道路検討業務)
- 【優良施工業者(業務部門)】▽宮崎直樹(扇精光コンサルタンツ(株)、令和4年度城原川ダム土地評価業務)
- 【優良施工業者(業務部門)】▽三井共同建設コンサルタンツ九州支社(令和5年度城原川ダム周辺道路検討業務)

原川ダム損失補償準備作成等業務)

### 塗り絵お礼にクレヨンを 「興味持つきっかけに」

富士建設(株) (有明海沿岸国道事務所発注)の現場に、はら組(年長組)が色を付けた重機の塗り絵を展示している。

集まった子どもたちが田島氏は「現場で働く人や近くを通る人が、みんなの絵を見て元気をもらっている」と話した。

「移動中に工事現場のそばを通ると、あれはなにをする車だと大はしゃぎで、塗り絵もとても楽しんでた。クレヨンまでいた、嬉しい」と期待を語った。



「現場で働く人や近隣の目にとまる掲示物には趣向を凝らしたい。園児たちの絵は見る人の気持ちを和ませてもらっている」と田島氏。塗り絵が土木になつて、いずれこの道を選んでくれたらうれしい」と期待を語った。

### 開発申請